



介護職 労働環境充実を

わだ なぎさ
和田 凧沙さん(武生東高2年)

現在、深刻な人手不足が問題となっている介護職種が、新たに外国人技能実習制度に追加された。既に実習生の採用を内定した介護事業者もあるようで、人手不足解消の糸口になるのではないかと、期待の声があがっている。一方で、実習生が帰国後に働く先が見つからなかったり、農業や建設などで酷使されたりする例もあり、制度に疑問の声もある。

将来、大幅な人口減少、労働力減少が見込まれる中で、私は、こ

の制度が人手不足の根本的な解決策になる可能性は低いと考える。やはり、介護職種の賃金の引き上げや労働環境の見直しが必要なのではないだろうか。

外国人労働者に頼りすぎれば、労働者数が不安定になることや言語の壁による問題が起こることが予想される。介護職種に就く日本人の数を増やしながら外国人実習生の受け入れを図り、長期的に安定した労働力を確保することが重要だ。

外国人技能実習制度は、海外から日本に人を呼び寄せるための制度で、主に農業、建設、製造業などに従事する外国人労働者を対象としている。介護職種の追加は、介護業界の人手不足を解消するための重要な一歩と見られている。しかし、実習生の受け入れ状況や労働環境の改善が課題となっている。

介護の外国人技能実習

はや人材争奪戦



来月から新制度 なり手不足、解消躍起
90公認介護事業者の11が行政処分 技能実習生の受け入れが急務
介護業界は、外国人技能実習生の受け入れが急務となっている。しかし、受け入れに必要となる人材の確保が難しくなっている。また、実習生の受け入れ状況も、受け入れ予定の人数に達していない事業者が多いとされている。



介護職種の外国人技能実習生受け入れ状況(推定)